



臨床糖尿病支援ネットワーク

MANO a MANO



“mano a mano”とはスペイン語で“手から手へ”という意味です

新型コロナウイルス狂騒曲

[当法人理事]

吉祥寺・藤田クリニック

藤田 進彦 [医師]

2020年1月に始まった新型コロナウイルス狂騒曲は3年経過した今でも終わりが見えません。2020年2月に、乗船者の1人が新型コロナウイルスに感染していたことがわかったダイヤモンド・プリンセス号が横浜港に停泊しました。乗船者10人の陽性がわかるも、感染者を受け入れる病院が日本にはなく、14日間の船内隔離をする方針になり、船内の悲惨な状況が報道されるたびに、感染症の怖さを知ることになりました。結局712人が感染し、13人が亡くなりました。日本国内での感染者発生報道を受け、多くの方は外出を控えることになり、さらに政府から「緊急事態宣言」が4月に発出されると、医療機関への受診控えがピークとなりました。その一方で電話診療が増加し、当クリニックでも4月には100件近い電話診療に追われました。糖尿病診療では、処方薬に関しては薬局にお願いできますが、血糖測定物品や消毒綿等は医療機関から渡すことになっておりますので、それらを梱包して宅急便で送付する作業が大変でした。また同時期に発熱外来を開きました。当院が手狭なことから、発熱患者は時間的隔離を行い診察します。昼休みの時間帯や午後診療の終了後に一人ずつ診るのですが、遅くなる時は22時近くまでとなることもあります。当初はワクチンも治療薬もない状況ですから、恐怖を感じながらの診察でした。

5月からはPCR検査を開始しました。当初は武蔵野市PCRセンター(医師会会員が当番制で出務)での検査でしたが、8月以降は自院でのPCR検査が可能となりました。2021年8月以降は鼻腔ぬぐい液を検体とした抗原定性検査も併用しております。新型コロナウイルスワクチン個別接種も2021年5月より開始。既存のワクチンと異なるm-RNAワクチンが緊急承認により使用されることとなりました。当初はワクチン接種による感染予防効果が90%以上とされ、当クリニックも一人でも多くの市民が集団免疫を獲得できるよう休日も返上で接種をしました。その後ワクチン効果の継続性がないことがわかり、またウイルス自体が変異しオミクロン株は従来株への中和抗体を回避することから、感染者数はいまだに爆発的に増えています。オミクロン株対応ワクチン接種がはじまっていますが、今後も同様の現象が続くことが予測され、実際5回目接種された方の感染者も少なくありません。従来株のワクチン接種を開始して1年半が経過してもm-RNAワクチンでは集団免疫が実現できていない状況でありますし、長期的な視点から安全性に疑問もあり、今後の対応が必要と思われる。新型コロナウイルス自体は弱毒化して、さほど恐れなくてもよい状況となり、そろそろこのウイルスに寛容になってもよい時期になっているかもしれません。この3年間、患者様は外出を控えることで、筋力低下をきたすだけでなく、周囲との交流が限定され精神的にもつらい状況が継続しています。私もクリニックの滞在時間が増え、運動不足から体重が増えてすっかりメタボになってしまい、自身の健診で指導を受けました。

新型コロナウイルスのパンデミックの中で、1型糖尿病発症が増加しているとのニュースがありました。米国など13カ国の18歳以下の電子医療記録(EHR)を解析した報告によれば、新型コロナウイルス感染後0.043%が新規に1型糖尿病と診断され、新型コロナウイルス感染症以外の呼吸器感染症患者の1型糖尿病発症率0.025%と比較し72%上昇していたとのことでした。新型コロナウイルス感染による免疫反応が発症に関与すると思われる、今後注意が必要な報告です。)

1) JAMA Netw Open. 2022;5(9):e2233014. doi:10.1001/jamanetworkopen.2022.33014

読んで
単位を
獲得しよう

西東京糖尿病療養指導士(LCDE)は、更新のために5年間に50単位を取得する必要があります。本法人会員は、会報「MANO a MANO」の本問題及び解答を読解された事を自己研修と見做し、**1年につき2単位**(5年間で10単位)を獲得できます。毎月、自分の知識を見直し、日々の療養指導にお役立てください。
(「問題」は、過去のLCDE認定試験に出題されたものより選出、一部改変しております。)

問題 ● 次の文章を読んで以下の質問に答えてください。

73歳、男性、1型糖尿病。HbA1c 8.2%。妻、次男夫婦と同居。妻、次男は就業しており、日中は家にいない。介護認定要支援1。超速効型インスリン(朝6単位、昼4単位、夕4単位)、持効型溶解インスリン(就寝前8単位)で血糖コントロールを行っている。現在、インスリンを含め薬の管理は全部本人のみで行っている。「最近物忘れが多くなってきて、降圧薬などの内服薬を飲み忘れることがある。注射も打ったかどうか不安になってしまう。妻から怒りっぱいって言われる。」と話している。

この患者について誤っているのはどれか、2つ選べ。

1. 次男の妻にインスリン注射を依頼する
2. 注射手技が正しいかを確認する
3. 低血糖の確認は不要である
4. 日中独居の場合ヘルパー(介護福祉士)にインスリン注射を依頼する
5. 医師に認知機能の評価を依頼する



報告

第39回武蔵野糖尿病研究会Webセミナー

日時: 令和4年10月1日(土)
オンライン

令和4年10月1日(土)オンライン開催にて、『第39回武蔵野糖尿病研究会Webセミナー』が開催されました。

基調講演は、武蔵野赤十字病院 内分泌代謝科 蝶名林 美波先生より「糖尿病と感染症の深い関係」についてご講演いただきました。1. 糖尿病と感染症について、2. 感染症が誘因となり得るシックデイについて、という2部構成でまとめていただきました。糖尿病の患者を診療する場合において易感染性と感染症合併時の感染症の重症化は大きな課題である点や糖尿病患者がかかりやすい感染症について、また、シックデイ時の対応について実症例をご提示いただきながらご講演いただきました。コロナ禍の現在、糖尿病と感染症との関連についても取り沙汰されており、再考する機会となるご講演でした。

特別講演は、東邦大学医療センター佐倉病院 糖尿病・内分泌・代謝センター 准教授 齋木 厚人先生より「肥満・糖尿病患者と共に歩むための薬物治療と外科治療、それを支えるチーム医療」という演題にてご講演いただきました。偏見(=スティグマ)を放置すると、腎不全(透析)患者などが増加し、結局は社会が不利益を被ってしまうという問題提起から始まりました。肥満・糖尿病は心身両面に関与する難治性疾患で、「リバウンドする疾患」であり、その治療には集学的アプローチが不可欠である点、実症例やご施設での取り組みをご提示いただきながら心理社会面を支えるチーム医療についてご教授いただき、外科内科治療全てにおいて患者さんが治療中断せず治療へのモチベーションを維持していくためにも、チーム医療が大切になると改めて気付かされるご講演でした。当日は103名の先生方にご参加いただき、質疑応答の時間も熱心な意見交換がされ、大変有意義な会となりました。



報告

第36回多摩糖尿病チーム医療研究会

日時: 令和4年10月20日(木)
オンライン

令和4年10月20日(木)19:00よりオンライン配信にて『第36回多摩糖尿病チーム医療研究会』が、当番世話人・総合司会の多摩センタークリニックみらい 藤井 仁美先生の開会の挨拶により開催されました。本会は、糖尿病治療において医師をはじめメディカルスタッフがチーム一丸となって取り組んでいる活動を紹介する講演会であり、今回のテーマは『がんと糖尿病』です。

特別講演は、多摩市のみゆきクリニック 院長 辻野 武先生により『膵臓と糖尿病』と題しご講演を賜りました。辻野先生は、近年増加傾向にある「膵臓と糖尿病」の関連性について概要や画像所見を用い分かりやすく解説いただきました。辻野先生は、多くの質問にも丁寧に回答されていました。

一般演題では、『がん治療をめぐる当院での取り組み』をテーマとし、多摩センタークリニックみらいの4名の先生方にご講演を賜りました。1人目は医師の吉村 弘子先生で『膵臓がんの症例』、2人目は看護師の野村 一代先生で『情報シートに垣間見るがんとう糖尿病』、3人目は臨床検査技師の大川原 めぐみ先生で『腹部エコー検査を活用した糖尿病患者とがん』、最後にウラン薬局管理薬剤師の尾田 哲哉先生で『がんを併発した糖尿病患者の薬局でのフォローアップ』でした。質問も多く、ディスカッションも活発に大いに盛り上がりました。

最後に、杏林大学医学部付属病院 兼近藤医院 近藤 琢磨先生より閉会の挨拶をいただき、チーム医療の重要性について触れ、今回の一例を各病院での参考事例にさせていただきたいと結び、閉会いたしました。

本会は、新型コロナウイルス感染状況を鑑み、オンラインのみ開催でしたが、50名弱の先生方に視聴いただき大変有意義な会となりました。





第37回日本糖尿病合併症学会

令和4年10月21日(金)～22日(土)

国立京都国際会館 / Web配信

[当法人業務執行理事]

東京医科大学八王子医療センター

松下 隆哉 [医師]

第37回日本糖尿病合併症学会は、2022年10月21日(金)～22日(土)に国立京都国際会館で第28回日本糖尿病眼学会総会と共同で開催されました。新型コロナの影響で2020年は完全オンデマンド、2021年は現地とオンデマンドのハイブリッド開催でしたが、本年は一部オンデマンドもありましたが、ほぼ現地開催されました。今回は、久しぶりに現地で学会に参加してきました。今後は、新型コロナウイルスの感染状況や行動制限の状況をみながら現地開催の学会も増えていくことを感じました。

第37回日本糖尿病合併症学会のテーマは「早期発見・早期治療による糖尿病合併症の重症化予防」とされてきました。日本糖尿病合併症学会では、一般演題がワークショップというセクションの中で発表されますが、今回も一般演題(ワークショップ)、教育講演に加え、糖尿病合併症の重症化を予防するための診療科や職種を超えた幅広い連携や、合併症の発症素因の解明、早期からの診断・治療技術に関するトピックスなどを交えた特別講演やシンポジウムが企画されていました。特にシンポジウムでは「心腎連関に関する最新の知見」「糖尿病の皮膚疾患・足病変」「糖尿病性神経障害の研究・診療最新知見」「合併症予防を見据えて糖尿病治療薬をどのように使い分けるか?」「サルコペニア・フレイル対策を見据えた糖尿病診療」「糖尿病性腎症研究の最新知見」「わが国における糖尿病合併症に関するエビデンス」「糖尿病および合併症の遺伝素因」のテーマでディスカッションが行われており興味深かったです。特に「合併症予防を見据えて糖尿病治療薬をどのように使い分けるか?」では、糖尿病合併症に効果のある薬剤の使用については本邦でのディスカッションはあまり多くはありません。糖尿病治療は早期発見・早期治療に重点がおかれますが、糖尿病の初期はほとんど症状がなく、健診を受けなければ気づくことはできません。診断が遅れ、治療開始後にも良好な血糖コントロールの維持ができないと合併症が悪化しますが、血糖コントロールでは改善が難しいのが現状です。SGLT2阻害薬やGPP-1受容体作動薬は、動脈硬化性疾患・腎障害には血糖コントロール以上の合併症抑制効果あると考えられています。そのため、本邦でも、糖尿病合併症抑制という視点を糖尿病治療薬の選択にも取り入れていく今回のディスカッションは有用でした。さらに議論が進み、糖尿病患者さんの合併症が抑制され、健康寿命やQOLが改善することを望みます。

新型コロナウイルス感染症の蔓延がまだまだ続いています。糖尿病の急性合併症の一つで死因にも関わる感染症の対応が見直されています。当科では、新型コロナウイルスワクチンによる糖尿病ケトアシドーシスを報告させていただきました。インターネット上にも取り上げられていますので、ご興味のある方はご覧ください。

(<https://medical-tribune.co.jp/news/2022/1129548228/>)

糖尿病の死因は血管障害からがんや感染症が主となってきており、合併症の発症・進展抑制も、血糖コントロールが主な治療でしたが、治療薬の選択で合併症を抑制できる可能性もでてきています。合併症も様々なものがあり、それぞれを診断・治療していく必要があります。糖尿病合併症にはより焦点が当てられてくるようです。



読んで
単位を
獲得しよう

答え 3, 4 下記の解説をよく読みましょう。

(問題は1ページにあります。)

解説

- 1: 正 本人の注射が困難な場合には、家族の協力を得ることを検討する。
- 2: 正 認知機能低下が疑われるので、注射手技を確認することは大切である。
- 3: 誤 インスリン過剰により低血糖になっている可能性があるだけでなく、低血糖によって認知機能が低下している可能性もある。低血糖の有無を確認する必要がある。
- 4: 誤 インスリン注射は医療行為になるので、介護福祉士は実施不可。ただし、インスリン注射の声かけや見守りを依頼することはある。
- 5: 正 物忘れ、易怒性がみられることから認知症が疑われるので、認知機能の評価(長谷川式簡易知能評価スケールやMini-Mental State Examination; MMSE等)は重要である。

事務局からのお知らせ



事務局へのお問い合わせは当法人ホームページで常時受付けております。ご返答にはお時間をいただく場合がございますが、順次対応させていただきます。お急ぎの方は平日の10:00～12:00/13:00～16:00にお電話くださいますようお願いいたします。

《 2023年度年会費納入をお願いいたします 》

2023年度年会費は、ご自身のマイページ「年会費納入のお願い」よりご納入いただけます。会員継続される方は、3月31日(金)までにご納入をお願いいたします。

納入期間

2023年3月31日(金)まで

金額

5,000円

納入方法

マイページ「年会費納入のお願い」より



研究会等のセミナー・イベント情報



◆ 主催事業

◆ 共催・後援事業

□ その他

□ 第60回 糖尿病診療—最新の動向 [医師・医療スタッフ向け研修講座]

申込必要

開催日：2023年2月26日(日) 9:30～13:00

参加方法：Zoomにて開催いたします

参加費：3,000円

申込：糖尿病情報センターHPに掲載の申込フォームよりお申し込みください(2/19締切)

☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：7単位

☆日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<第2群>：1単位申請中 他

オンライン

◆ 糖尿病災害対策委員会 第10回医療者向けセミナー

申込必要

テーマ：『「糖尿病災害時 サバイバルマニュアル」～自分のことは自分で守れますか?～』

開催日：2023年3月2日(木) 19:20～21:00

参加方法：Zoomにて開催いたします

申込：当法人ホームページの「セミナー・イベント情報」よりお申し込みください(3/2締切)

☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：4単位

参加費
無料

オンライン

◆ 一般社団法人 臨床糖尿病支援ネットワーク 第74回例会

申込必要

テーマ：『腎症再考：その腎臓を守るためにできること～新ガイドラインと最新の知見から考える～』

開催日：2023年3月13日(月) 19:20～21:00

参加方法：Zoomにて開催いたします

参加費：当法人会員 無料 / 一般 2,000円

申込：当法人ホームページの「セミナー・イベント情報」よりお申し込みください(3/13締切)

☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：4単位

☆日糖協療養指導医取得のための講習会

参加費
無料

オンライン

発行元

一般社団法人 臨床糖尿病支援ネットワーク事務局
〒185-0012
国分寺市本町2-23-5 ラフィネ込山No.3-802
TEL:042(322)7468 FAX:042(322)7478
https://www.cad-net.jp/
Email:w_tokyo_dm_net@crest.ocn.ne.jp

編集後記



大学の学生実習を受けていますが、感染状況が厳しくなるたびにZoomを利用し、現在はオンラインとリアルの実習が混在しています。学生は大学でも利用しているのですっかり慣れていますが、先日、今まで日程の関係で偶然リアル実習しか当たらなかった同僚から「Zoomの使い方を教えてください！」と今更の質問を受けました。前日に1人でPC3台も起動させて一生懸命に練習していたのでお手伝いしました。(広報委員 小林 庸子)